

令和5年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立鹿妻小学校

教諭 佐々木 留美子

1 はじめに

昭和61年4月8日に開校した鹿妻小学校は湊地区と渡波地区の中間に位置する。北部には自然環境に恵まれた牧山丘陵を背負い、東部には田園地帯が広がる。南・西部は石巻漁港に隣接する住宅地である。学校としての立地条件から見て、静かな恵まれた環境にあるといえる。

本校は、今年度「夢や希望をもち 心豊かでたくましい児童の育成」を学校教育目標として、目指す児童像を「進んで学習にチャレンジする子」(かしこい子)「明るく思いやりのある子」(やさしい子)「最後までやり切る子」(たくましい子)とし、児童並び保護者、地域社会の願いや実態・実情を的確に把握し、生涯学習の基盤をつくるとともに、社会の変化に主体的に対応して生きていく力を育むために教育活動を進めている。

租税に関する学習は、小学校学習指導要領の第6学年の内容(1)ア(ア)日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること、国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、裁判員制度や租税の役割などについて扱うとなっている。

「租税の役割」については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。その際、限られた財源をどのように配分するのかを決める責任は、国会や地方議員などの制度を通して、国民や住民にあることに触れるようにする。

2 児童の実態

本校の6学年の児童は、委員会の仕事、当番の仕事など自分の役割をしっかりと果たし、創意工夫をしながら取り組んでいる。最高学年として縦割り活動やクラブ活動などでリーダーシップを発揮している児童が多い。

社会の学習において、政治経済に関して基礎的基本的な知識をもっていたり、興味関心が高かったりする児童はあまりいない。ニュースや新聞などで社会のしくみや租税に関することに、その知識を持ち合わせている児童も少ない。

3 指導に当たって

指導に当たっては、前述を踏まえ、次の4つの手立てを講じていく。

- (1) 税に対する興味関心や意欲を高める導入を行う。
- (2) 税に関する基礎的・基本的知識の理解を深めるための教材の工夫をする。
- (3) 自分の生活と税について、結び付けて考えることができるような学習過程の工夫をする。
- (4) 将来、税についてよく考え、税金の使い方を決める代表者を自分で選択できる指導をする。

4 指導計画

	単元名 主な学習活動	税に関する学習内容	手立て
1	わたしたちのくらしと日本国憲法 市の政治が基本的人権の尊重にもとづいておこなわれ	税金を納める義務	手立て(1)

	ていること、日本国憲法には国民の権利と義務が定められていることを理解する。		
2	国の政治のしくみと選挙 国会の働きを調べることを通して、国会は国の政治の方向を話し合っていることを理解する。	予算の議決 (税金の使われ方)	手立て (2)
3	選挙のしくみを調べることを通して 国会での話し合いは選挙で選ばれた国会議員により進められていることや、国会議員によって国民が納めた税金の使われ方が決められていることを理解する。	税金の集められ方と 使われ方	手立て (3) 手立て (4)
4	歴史分野 大化の改新と天皇の力の広がり他、歴史上の税制についてその都度、変遷を調べる。	租・調・庸等	手立て (1) 手立て (2)

5 実践

(1) 税に対する興味関心を高めるための工夫

6年生の学習・政治国際編の導入として宮城県租税教育推進協議会・仙台国税局で企画・制作したパンフレットに掲載されているクイズを出した。学習に入る前で予備知識なしで行った。クイズは以下の5問である。

- 第1問 税金を払うのは、18歳になってからである。 答え【×】
 第2問 みんなが学校で使っている教科書は、税金が使われている。 答え【○】
 第3問 国の税金は道路や橋などの整備のために一番多く使われている。 答え【×】
 第4問 警察官や消防士の活動に税金が使われている。 答え【○】
 第5問 税金をどのように使うかを決めるのは、内閣総理大臣である。 答え【×】

どの問題も、誤答が多く基本的な知識がない児童が多いことが分かった。第1問目は児童全員が買い物で消費税を払っていることに気づくことができた。第2問の答え合わせをした後、自分たちの使っている教科書の裏表紙を見て「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と印字されていることを確認し、税金を身近に感じさせることができた。このパンフレットはイラストが多く、わかりやすく解説されていた。

(2) 税に関する基礎的・基本的知識の理解を深めるための工夫

税金の種類、税金の流れなどを動画、教科書のイラストなどを使い、視覚的に分かりやすく、かみ砕いて説明した。歴史の学習をする中で、その都度、現在との違いに気付かせながら興味をもたせ、知識の定着を図る。これも前述の宮城県租税教育推進協議会・仙台国税局のパンフレット「税金ってなんだろう」や東京書籍の電子教科書コンテンツ、NHKforSchoolの番組「社会にドキリ『権利と義務』」、ショート動画「税金の種類と使われ方」「税金のはたらき」などを視聴させた。具体的なイメ

ージをもたせることで、児童は基本的な知識を得ることができた。

また、歴史的分野の学習では、農産物（租）や特産物（調）、労働（庸）などを税として国に納める仕組みができたことを学び、8世紀頃から税の仕組みがあったということに気付かせることができた。現代と違って物で納めること、昔から税があったことに驚いた児童が多かった。

（3）税と自分の生活との関わりに気付かせる工夫

税金の使い道については、国だけでなく、宮城県、石巻市について触れることで、税金が自分たちの生活に大きく関わっていることに気付かせることができた。また、収入、予算などの円グラフを読み取り、国会や市議会の動画を視聴させ、どのように予算が決められるのかを大まかに知ることができた。

（4）将来、税についてよく考え、税金の使い方を決めるための代表者を自分で選択できる指導の工夫

教科書の電子版のコンテンツに、模擬投票を行うものがある。二人の立候補者が、税金について自分の考えを伝え、児童はどちらの立候補者に投票するか一人一人考える活動である。選挙に行き、自分たちの納めている税金の使い道について考え、候補者を選ぶことが大切だということに気付かせることができた。



6 成果○と課題△

○はじめは「税金のことは分からない」という思いの児童が多かったが、学習を進めていくうちに自分の生活に必要な不可欠という意識をもつ児童が多くなった。道路や橋、ごみの収集なども税金が使われ、自治体によって違いがあることなども動画教材などで知り驚いていた。知識が乏しい児童が多いので、今後も機会があれば、教材として取り入れ、考えさせていきたい。

△予算案や税の種類、仕組みなど、児童が初めて聞く言葉が多く、思ったほど理解していない児童が多かった。児童が分かっていると思い込まずに、よりかみ砕いて説明する必要がある。